

栃木県中小企業家同友会は、県北・県央・県南の3エリアで支部活動を展開中です。他支部会員、オブザーバーの参加も大歓迎。詳細は事務局までお問い合わせください。

■活動報告01 県南支部 ～5月県例会報告～

非常識な働き方で時代を切り開く、町工場の挑戦

今年5月25日、宇都宮市東市民活動センターを会場に5月県例会が開催された。報告者は(有)中里スプリング製作所(群馬県高崎市)の代表取締役社長であり、群馬県中小企業家同友会会員の中里良一氏である。今回の報告は2013年11月の県南支部例会に続く2回目となった。

父親から経営を引き継いだ氏は一番に、1)社員の心の貧しさ、2)取引先のレベルの低さ、3)経営者の至らなさを痛感する。その後、「町工場」であることに誇りを持ち、既成概念にとらわれず次々と斬新な経営改革を実践していった。例えば、古参社

員を入れ替え、嫌いな取引先と縁を切るなど思い切った「7つの改革」である。その他、革新的な事例は枚挙にいとまがない。

実体験を元にした氏の一言一句は説得力があり、自らの業務にも応用したいヒントに溢れていた。聞き逃すまいと熱心にノートに書き留める会員の姿が目立った県例会であった。

[報告] 広報委員長 鈴木正則/
アデラ・コンテンポラリー



中里良一氏

■活動報告02 県央・県北支部 ～6月合同例会報告～

感動創造カンパニーの挑戦！ 事業継承 ～行動こそ真実～

今年6月11日、「御用邸チーズケーキ」「しらさぎ邸」で知られる(株)庫やの手塚清社長を報告者に、県央・県北支部合同例会が開催された。

手塚氏は冒頭で「心を込め、素材を厳選し、真剣にお菓子づくりに取り組む姿勢を商品で表現している。その継続がブランド力となり結果をもたらす」という美学を語り、続けて「その考え方が醸し出されたものがブランドを形成する。だからこそ売れる商品を造り続けることが会社存続の源泉となり、事業継承へと導かれる。後継者は「その時に、最適な

人がなればよい。それを具現化するためには、組織の中で人が自由に発想し、フェアな空気感の中で、各自が責任と自由を持ち価値を生み出すことに没入することが企業活動の本質である」と熱く語った。

以上のような「手塚語録」ともいえる貴重な話を多くの会員に伝えるべく、再度報告をお願いし、さらに学びの輪を広げたいと思った。

[報告] 佐々木理倫 / t s コンサルタント



手塚 清氏

■活動報告03 県央支部 ～6月県例会報告～

同友会の学びを生かした 企業づくりの実践例

今年6月23日、宇都宮市東市民活動センターにおいて6月県例会が開催された。報告者は長野県中小企業家同友会代表理事で、株式会社システムプラン会長の関野友憲氏である。テーマは表題の通りで、会員とオブザーバー合わせて24名が参加した。

報告は、関野会長の経歴に始まり、社長になってからのこと、そして、社長の座を譲って会長になるまでの経過などについて、具体的な内容を織り交ぜて話された。

例えば、いま社会問題になっている人口減、特に急激な労働人口減少の環境の中で100年継続する企

業を目指し、経営指針づくりと同時に退職金制度の改正、拠出型年金の導入、私募債の発行、社員持株など同友会で学んだことを次々と実行し、経営システムを構築したという報告があった。

特に、大企業は競争原理で経営しているが、中小企業は一人一人がお互いの役割を果たし、共感し認め合うことで成り立っている。だからこそ社員教育が大切であるとの言葉が特に印象に残った。

[報告] 深澤義雄 / (株)ビジュアル



関野友憲氏